

## 経済学部 経済学科

### 教育研究上の目的

経済学科は、経済学の理論・歴史・政策などの専門科目の学修を踏まえ、現代の複雑で多様な経済社会を理解し、実践的に対応できる人材の育成を目的とする。

### 教育目標

本学の教育目標及び本学科の教育研究上の目的等を踏まえ、経済学部経済学科では、現代の複雑で多様な経済社会を理解し、実践的に対応できる人材の育成を最終目標とします。

現代の経済社会は、グローバル経済の進展、国際金融の変容、資源エネルギー問題の深刻化、急速な少子高齢化の進行、累積財政赤字問題など、内外ともに大きな変化の時代を迎え、あらゆる経済主体が複雑かつ多様な課題を抱えています。

このような急速に変化する経済社会で活躍するには、これらの経済現象を正確に認識し、課題を解決する実践的な能力を備えることが必要とされます。

本学科では、少人数の長所を活かしたゼミナール及び学科独自の初年次専門教育と3つのコース制専門教育を中核に展開しつつ、英語教育と情報教育を重視し、基礎能力の養成に努めます。さらに、教養教育、キャリア教育を含む全学共通の基礎教育と有機的に関連させることにより、4年間の学習を通じて、コミュニケーション能力と自ら学ぶ力を涵養して、専門知識を駆使して課題を見つけ出し解決できる有為な人材を育成することを教育目標として定めます。

### ディプロマ・ポリシー

#### (学位授与の方針)

本学科のカリキュラムにおいて、所定の卒業要件単位を修得した者は、次に掲げる能力や資質を身につけていると判断し、学士（経済学）が授与されます。

1. 現代社会が直面するさまざまな問題を深く理解し、自らの手で積極的に未来を切り拓くことができる能力
2. 地域から世界まで広くみわたすことのできる国際的な視点とコミュニケーション能力
3. 幅広い教養と専門的な知識をあわせもち、学際的で複眼的な思考ができる能力
4. めまぐるしく変化する現代社会に的確に対応できる情報処理技能

### カリキュラム・ポリシー

#### (教育課程編成・実施の方針)

本学科では、現代の経済問題を正確に認識し世界の急速な変化に対応できる能力を培うとともに、教養を身につけ基礎学力をバランスよく備えた人材を育成するために、以下に示した方針で教育課程を編成しています。

1. 外国語科目や教養科目のほか、経済学・経営学・商業学の各分野にわたって、幅広い知識と教養を身につけられる多彩な科目を配置しています。
2. 「FYS（ファースト・イヤー・セミナー）」や「経済入門」等、学科の特性にあわせた初年次教育科目を配置しています。
3. 系統的により深く専門科目を修得できるように、福祉・環境・公共政策を学ぶコース、市場・企業・産業を学ぶコース、国際経済と社会を学ぶコースという3つのコースを設けています。
4. 少人数で多種多様なテーマに取り組むゼミナールを2年次第4 Semesterから4年次まで設置しています。
5. 情報化時代に的確に対応できる情報処理能力を養うため、基礎的な「経済情報処理」から高度な技能と専門性を身につける中・上級の「インテンシブ・プログラム〔情報〕」コースまで、多様な情報関連科目を設置しています。
6. 国際的な視点とコミュニケーション能力を培うために、ビジネス英語や多様な言語を扱う経済外国語科目、英語による授業科目等、基礎から応用まで多彩な外国語科目を設置しています。